

## 第 18 回（平成 30 年度）ざまひまわり写真コンテスト全体講評

今年の「ざまひまわり写真コンテスト」は、皆様のご支援のお蔭をもちまして 18 回を迎えることができました。今回は応募点数が 617 点、応募者が 260 人で、前回と比較し応募点数・応募者共にかなりの伸びとなりました。今年は栗原地区・座間地区いずれも開催期間中は幸い天気にも恵まれ、多数の方にご来場頂いたことが結果に結びついたものと思われます。

次に、応募作品の傾向についてご説明いたしますと、ひまわりを肩にかけた少女の表情をリアルに収めたもの、青い空に浮かぶ白い雲の下に咲き誇るダイナミックなひまわりを表現したものの、大山を背景としてひまわり畑を取り込みながら田園風景を強調したものの、赤く焼けた空に沈みつつある太陽を配しひまわりをシルエットで見せたもの、さらにたくさんの観光客の方がまつり会場を満喫している様子を撮ったものなど、実にさまざまなジャンルの作品をご応募いただき、皆様の豊かな感性に感心させられました。主催者及び各賞の提供団体からも、充実したコンテストが開催されたいへん喜ばしい。と伺っているのは例年のとおりです。

また応募された方の年齢もなんと 10 歳未満の方から 80 歳代の方までと昨年より幅広い年齢層にご指示いただき、応募される方のおおよそ 8 割の方が座間市以外の神奈川県内もしくは県外であり、このひまわり写真コンテストが広い地域で認識され、定着してきたことと思っております。

入賞作品につきましては、全応募作品の中から 18 作品を選出し、その中の 8 作品に賞の名称を付し、他の 10 本を入選としました。8 賞を獲得された方の作品にはそれぞれに寸評を記しておきましたのでどうぞご覧ください。例年のとおり惜しくも入賞（全 18 作品）を逃した方の中にも良い作品が多数ありました。入賞数を 18 作品に絞らなければならないという審査基準の中で、残念ながら含めることができなかつた作品が多くありましたことをご報告申し上げる次第です。この点は審査に携わる者として大変心を痛めると同時に皆様には次回のご健闘をご祈念申し上げます。

作品は年々レベルアップしており、応募くださる写真愛好家の質の高さを感じておりますが、コンテストも 18 回と数を重ねてまいりますと、これまでにたくさんの作品が応募され、作品制作に迷いの生じる時期かと思っておりましたが、今回は審査に入りますとご自分の感性で対象物を発見し、独自の表現力で仕上げた作品が多く見受けられ、新しい作品に出合った嬉しい刺激を感じております。また次回もご自分なりの感覚で仕上げたすばらしい作品を多くの方にご応募くださるようお願い申し上げます、本コンテストが皆様にご支援いただく中で開催されることを念じつつ、この度の「ざまひまわり写真コンテスト」審査員の全体講評とさせていただきます。皆様とは、またこの会場でお会いできることを期待いたしております。

平成 30 年 11 月吉日

写真家 高橋